

実践報告

小学校放課後活動における森林環境教育の意義

—中名寄小学校「風の子教室」から—

柳原高文\*

名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科

1. はじめに

名寄市立中名寄小学校は特認校であり、名士バスを利用して通学している児童が半数以上いる。そこで、授業終了後からバスの運行時刻までの時間を利用し、近隣の寺社林である「神社山」で自然観察を中心とした活動を月2回程度、2017年から行っている。主な活動は四季を通じて動植物を観察する自然観察であるが、毎年9月5日に地区で行う神社祭り終了後に神社山の樹木に樹名板を設置する活動を行っていた。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染予防から神社祭りは中止となり、神社山に樹名板を設置することができなくなった。そこで、中名寄小学校の校庭の樹木に樹名板を設置する活動を考えた。児童全員が樹木を1本選び樹名板を設置し、調べ学習を行って得た知識から樹木の説明を行った。この活動の目的は、身の回りの樹木を知ることで自然への気付きを促すことである。

2. 活動の紹介

1) 樹木を選ぶ

9月15日の風の子教室で、児童たちは校庭の樹木の名前を教わり、好きな樹木を決めた(表1)。中名寄小学校の校庭には、およそ15種の樹木が生育しているが児童たちの選ぶ樹木は数種類に限定されず多種に渡った。これは、神社山の樹木を観察することが日常になっている児童たちにとって、樹木の個性を見つけ出し、その個性を認めているからだと考えられる。

表1 児童の選んだ樹木

樹名	人数	樹名	人数
イチイ	1	トドマツ	1
エゾヤマザクラ	5	ドロノキ	2
カラマツ	3	ナナカマド	1
キハダ	1	ニオイヒバ	1
ギンドロ	1	ハルニレ	2
ストロブマツ	2	モンタナマツ	1
ズミ	1	ヨーロッパマツ	1
ツルウメモドキ	1	合計	24

2) 調べ学習する

選んだ樹木は、どんな花が咲き、どんな実がなり、どのような生き物が好むなど、自然生態系のなかでの位置付けなどをwebや図鑑から調べた。児童によっては文化的な価値や材木の利用まで調べていた。

3) 樹名板設置・樹木の説明

10月13日に樹名板を設置した。設置後に樹木の特徴や、選んだ理由などを児童が一人ずつ全員の前で発表した(写真1)。なお、今回は中名寄小学校の教員も自分の樹木を決め樹名板を設置した。児童の選んだ理

\*責任著者 E-mail:salixtakafumi@me.com

由は、「大きな木だからステキ」これは、カラマツやドロノキを選んだ児童の発表である。最も多い5人の児童を選んだ樹木はエゾヤマザクラであった。これは、春に咲く花の美しさを児童が覚えていたからだと考えられる。キハダを選んだ児童は、植物だけではなく昆虫が大好きで、キハダにミヤマカラスアゲハが産卵し、蛹になるまで観察しているお気に入りの樹木であるからだ。



写真1 発表している児童



写真2 全員でわかちあい

### 3. おわりに

児童が樹名板を設置し、樹木の発表を行った後に大きなハルニレの木の下でわかち合いを行った（写真2）。「学校に木があるとどんな良いことがあるのかな？」筆者の問いかけに児童たちはすかさず答えた。

「木陰ができて涼しい」「動物が実を食べにやってくる」「チョウがたまごを産む」「景色が良くなる」「空気が奇麗になる」どんどん答えが出てくる。「勉強には使えないかな？」この問いかけには、「木登りができる」「図工で絵を描ける」「理科で観察ができる」など答えが出てくる。だいたい出尽くしたところで、その他に「風を生み気温が涼しくなる」「音や砂ぼこりから学校を守ってくれること」など話しあった。校庭の樹木の役目はそれだけではないだろうが、今回のように自分で選ぶ、調べる、樹名板をつける、発表するという一連の活動は、児童たちの記憶に残り、継続的に樹木を愛でること、観察することなどの活動が発展してくると期待できる。

今回の樹木を選ぶ過程でN君はナナカマドを選んだ。9月のナナカマドは花もなく、紅葉も始まっていない。しかし、この児童は通年の観察活動からナナカマドは春にわた雲のような白く美しい花が咲くことや紅葉が美しいこと、冬の実が美しく野鳥が食べに来ることなどを知っていたのだ。このように、自然を観察する活動が継続していることで、児童たちの自然を愛でる眼が多種多様になっていること、それぞれの樹木のステキなところを理解していることが分った。観察とは「観ること」「察すること」である。この活動から児童たちの自然科学への学びにつながっていくことを期待する。

#### 付記

本稿は、名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター2020年度課題研究の採択を受けたものである。